

有限会社村上織布工場

タオルマフラーの受注増加を目指した生産体制の確立

外注比率が高く、今後、外注先からの安定した受託加工が見込めない可能性があり、内製化を主軸とした生産体制の確立が急務である。そのため、新設備を導入し、①生産の安定化、②短納期、③高品質・多品種小ロット対応、④オリジナル商品開発、⑤メーカーとの連携等の相乗効果により他社との差別化を図ることで、事業の拡大を目指した。

事業取組の経緯

当社は、タオルマフラーやフェイスタオル、バスタオル等を生産している。現在の当社の強みは、タオルマフラーの生産で、総売上高の約70%程度を占めていることである。近年、タオルマフラーの需要は、コンサートやアイドル関連の伸びが顕著で、年々増加傾向である。

しかし、当社は生産能力や納期などの関係で、総売上高に占める外注割合が高い傾向がある。今後、外注先への安定した委託加工が見込めない可能性があり、コスト面からも内製化を図ることが急務となっている。また、当社機械では対応できない多色で複雑なデザインの需要が増加傾向にあり、また、織機の停滞が非常に多く、不良品発生率も非常に高くなっている。そのため、トラブル対応のための時間的ロスが発生し、非常に非効率な生産体制となっている。

そこで、新たなエアージェット織機（写真1）及び電子ジャガード機（写真2）を導入し、生産体制を改善することとした。

実施内容

当社は、上記の外注加工割合、織機の停滞率、不良品発生率等の課題を克服すべく、新たなエアージェット織機及び電子ジャガード機の機種選定、導入を行った。

新型エアージェット織機は、従来の織機と比較して、生産量・スピード・品質とも約3.5倍程度の性能があるこ



写真1. エアージェット織機

と、また、エアージェット織機と電子ジャガード機との連携による複雑な模様を作成できることを確認した。

事業取組の成果

エアージェット織機及び電子ジャガード機を導入して、次の成果が得られた。

- ① 1日当たりの生産量が50%増加し、生産の安定化・短納期対応が可能となった。
- ② 高品質・多品種小ロットの生産が可能になったので、これまで外注に頼らざるをえなかった複雑なデザインの商品を自社で対応することが可能になった。そのため、外注加工費が減少した。
- ③ 停滞率が減少し、トラブルに対応するための時間的ロスも半分以下に減り、生産効率が増加した。
- ④ 不良品発生率が減少し、以前の1/4以下になった。

今後の活動予定

新型コロナウイルス感染症の終息後は、更にエアージェット織機を導入して、従業員の休息時間を多くとるなど、従業員の負担を軽減することによって、働き方改革を行いたい。

また、現在、新型コロナウイルス感染症の影響で受注が減少した商品については、代替商品を考案中である。



写真2. 電子ジャガード機

有限会社村上織布工場

- 代表者／代表取締役 村上 博一
- 本社住所／〒799-2430 愛媛県松山市北条辻 1122-2
- TEL／089-993-0606 ■FAX／089-993-0611
- URL／－
- メール（代表）／－
- 設立年／1922 年
- 資本金額（万円）／300 万円
- 従業員数（人）／11 名
- 業種／繊維工業
- 事業拠点／本社工場 愛媛県松山市北条辻 1122-2

沿 革

当社は、この町で、
約 100 年前から、
伊予かすりの製造を始め、
約 60 年前から
タオルの製造を始めた。

企業概要

当社は、タオルマフラーやフェイスタオル、バスタオル等を生産している。

主要取引先

株式会社丸宗、株式会社東進等

主要商品（成果品）

タオルマフラー、フェイスタオル等

タオルマフラー	フェイスタオル	セット
		
工場内風景 1	工場内の風景 2	工場内の風景 3
		

主要設備

エアージェット織機、電子ジャガード機、レピア織機（回転遅い）、レピア織機（回転早い）等

担当者	代表取締役 村上 博一
連絡先	089-993-0606
連絡先 E-mail	－